

活動① 『動物のブロックであそんでみる』

活動テーマ

- ・子どもたちの中でごっこあそびのイメージが少しずつ広がっている。しかし、子ども同士のイメージをつなげたり、あそびを広げたりするためには玩具や具体的な関わりが足りないという思いから「イメージの世界」という大元のテーマにした。
- ・今回は特に子どもたちの好きなレゴデュプロブロックの中でも、ごっこあそびがしやすいと思える動物中心のセットに着目した。そのブロックを使って個々にイメージの世界を楽しむ。また、動物のブロックを通しての子ども同士の関わりを楽しむ。

活動内容 6月

- ・日々レゴデュプロやニューブロックなどのブロックに親しんでおり、車や家などをイメージしてあそんでいる。虫や動物への興味もあり、レゴデュプロにある動物のブロックを集めて楽しむ姿がある。
- ・初めは今回用意したブロックのみを使い、あそんでみる。子どもたちのあそびの様子を見て、ブロックを追加していく。
- ・保育者も一緒にあそびながら子ども同士のイメージをつなげ、あそびが広がるようにしていく。

準備した素材や道具、環境設定

- ・レゴデュプロ いろんなどうぶつ
- ・レゴデュプロ 大型基礎板
- ・他レゴデュプロのブロック（後半に設置）

子どもの姿からの気付き

- ・口の開く大きなクジラのブロックが人気であり、取り合う姿がある。欲しい気持ちを受け止めることにより口で「貸してほしい」と伝えたり、待っていたりする姿がある。
- ・基礎板にたくさんの動物をつけ「動物園だー」と動物園をイメージする子どもがいる。それを聞いて車のブロックを持ってきた子どもが「動物園には車は入れないねー」と言う姿がある。動物の周りを柵や他ブロックで囲んで更に動物園のイメージに近づける姿がある。
- ・動物園をイメージしたところに人形のブロックを持って来ると「動物に食べられちゃうよ」と言う姿がある。
- ・「あるこうあるこう」と自分がブロックの動物になりきって歩く姿がある。
- ・木の動物の人形も持ってきて動物園の枠の中に入れていた。

振り返り（次回のテーマ、どんな環境設定をするか）

- ・動物が多いセットだったからか、動物園というイメージが分かりやすい様子であった。木の動物の人形も使って楽しんでいたため、動物の人形を追加したい。
- ・動物になりきるなどと動物への興味が増しているため、動物に関する絵本や図鑑をそろえたい。
- ・動物以外のイメージも広がっていくように、保育者も一緒になって建物に見立てたものや車などをブロックで作ってあそんでいく。またブロック以外のものと組み合わせ、子どもたちの気付きや遊びの展開を見守りたい。



テーマ：イメージの世界

2歳児 たんぽぽ・すみれ組

活動② 『動物の人形を使ってあそびのイメージを広げてみる』

活動テーマ

・1回目の活動にて、動物のレゴデュプロブロックを使ってあそんだ。その中で動物の木の人形と一緒に使ってあそびが広がる様子を見られた。さらに動物の木の人形を用意することで、ブロックや他の玩具と組み合わせてどのようにあそびが広がるかと考え、このテーマにした。

活動内容 10月

- ・日々ブロックに親しんでおり、車や家などをイメージしてあそんでいる。
- ・保育者が教えるのではなく一緒にあそぶ中で、色々な玩具を組み合わせさせて楽しめるようにしていく。
- ・子どもたちの言葉や姿をよく見て、イメージを広げるために必要になりそうな素材を追加する。

準備した素材や道具、環境設定

- ・木の動物の人形
- ・レゴデュプロブロック
- ・ニューブロック（子どもたちが自分で持ってきた）

子どもの姿からの気づき

- ・木の動物の人形が増えて喜び姿がある。
- ・他児が使っている動物の人形を欲しがらる姿がある。それを聞いて貸してあげる姿もある。
- ・レゴデュプロブロックの板に動物を乗せて「動物園にする」という姿がある。それを見た他の子どもも同じように乗せる姿がある。
- ・保育者に「一緒に動物さんのお家作ろう」と言うため、一緒にブロックで動物を囲うように作る。更に動物やブロックを追加してあそびが拡大される。
- ・キリンを持って「長い」ゾウを持って「大きい」など、特徴を言葉にする姿がある。
- ・トラを持って「トラさんってなんで泣くの？」など、動物への興味が増している。
- ・動物同士を向かい合わせ「おはなししてるよ」と会話させる姿がある。
- ・ままごとのフェルトを持って来ると「クッキー焼いたよ、ご飯だよ」と動物に食べさせるようにしてあそぶ姿がある。
- ・人型の人形（ブロックや木のもの）を持って来ると、動物園の客というイメージでごっこあそびを楽しんでいる。また、その人形をブロックで作った車に乗せて動物園に向かわせる姿がある。
- ・ニューブロックで作ったものを動物として見立ててあそんでいる。また、車を作ると動物の人形を乗せて走らせている。

振り返り（次回のテーマ、どんな環境設定をするか）

- ・ブロックの動物は、他のブロックがあつてこそあそぶという姿があるが、木の動物の人形に関してはそれだけでもごっこあそびが広がっている様子がある。ままごとのものをごはんにするなど、他のものとも組み合わせやすい様子がある。
- ・子ども同士でもイメージを広げて楽しんではいるが、動物の家を作るなど、ブロックで何かを作るという時には保育者が介入することで更にイメージが広がっている様子がある。
- ・ブロックを組み合わせ、動物を乗せて走るバスにしたり、動物を作ったりとイメージが広がっている。ブロックを増やし、更にイメージを広げられるように環境を整えたい。



テーマ：イメージの世界



2歳児 たんぽぽ・すみれ組



活動③ 『ニューブロックを使ってイメージしたものを形にする』

活動テーマ

・2回目の活動で動物の人形やレゴデュプロの動物をニューブロックで作った車に乗せる、ニューブロックで動物をイメージして作るという姿があった。さらにイメージを形にできるようにと、引き続きこのテーマにした。

活動内容 1～2月

・普段からニューブロックを使って、椅子・動物・車など色々なものをイメージして作る姿がある。作ったものを使用して、子ども同士での関わりも増えており、ごっこあそびを楽しんでいる。

・子どもたちの言葉を聞き、イメージしたものを作ることができるように必要な時には手伝う。また、子どもが作ったもののイメージを言葉にするのを他児にも伝わるようにし、それをきっかけにあそびが広がるようにしていく。

準備した素材や道具、環境設定

- ・ニューブロック、デュプロブロック、マグブロックなど種類の異なるブロック。
- ・動物の人形などを組み合わせて使いやすいように近くに置いておく。

子どもの姿からの気づき

- ・新しいブロックにはすぐに気づき「新しいやつだ」と嬉しそうにしている。
- ・工事現場の車両やバス、緊急車両などを再現しようとする姿が増えている。
- ・新しいブロックであるため、緩くて取れてしまうようなことがなく、集中して作り上げることができている。
- ・特にタイヤやそれに付随する棒などの数が少ないため、それを中心に探す姿があった。
- ・動物の人形やデュプロブロックをニューブロックの近くに用意していたが、それを一緒に使うような姿は見られなかった。
- ・ブロックが新しいため、外す際に固いという姿があった。難しい時には保育者に助けを求めることができていた。

振り返り（次回のテーマ、どんな環境設定をするか）

- ・新しいブロックとタイヤを組み合わせ、乗り物を中心としたイメージしたものを形にすることができていた。
- ・新しいブロックは外す際に固いことに気づき、手伝ってほしいと言葉で伝えることができていた。
- ・乗り物を作るというイメージが強く、特に工事現場にある車やバスなどを再現する姿があった。普段の様子からも乗り物が好きであることが分かるため、乗り物に特化したブロックもしくは、パズルなどを用意していきたい。

